

旭ヶ丘キリストの教会
主日礼拝順序
2023年7月9日

司会：千田俊昭
奏楽：千田祥子

黙 祷		一 同
讃 美※	聖 歌 402「丘 に た て る」	一 同
主の祈り※	(聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください)	
讃 美	聖 歌 499「みく ら い を 降 り」	一 同
教会学校	紙 芝 居 「世 界 の 始 ま り」	牧 師
讃 美	聖 歌 654「一 度 死 に し 我 を も」	一 同
聖書朗読	使徒行伝5:17-21	
奨 励	使徒行伝の福音(第16回)	牧 師
主 題	「命のみことば」	
讃 美	聖 歌 151「妙 な る い の ち の」	一 同
献 金	献金と感謝の祈り	
聖 餐		
頌 栄※	聖 歌 376「父、御子、御霊の」	一 同
祝 祷※		牧 師
来週の箇所	ホセア書第4章	

※印のところでは御起立下さい。

- ☆ はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申し上げます。しかし、初めての方に無理な勧誘をするようなことは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
- ☆ 私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
- ☆ 献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです(2コリント9:7)。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
- ☆ キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
- ☆ 第二礼拝後、軽食を用意しておりますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
- ☆ 二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

旭ヶ丘キリストの教会 ニュース



《今週の歩み》

7/9(日)聖日礼拝
/10(月)
/11(火)
/12(水)
/13(木)10:00祈り会
/14(金)
/15(土)13-16子供おブソハウス



《祈りの課題》

- ① 家族の救いのために
- ② 礼拝に来れなかった人々のために
- ③ 教会学校の子供たちが救われますように

静思の時の為に

ヘブル書 Devotion 第6回

「私たちへの神の誓い」

(ヘブル6:13-20)

今日の箇所に繰り返し出てくるキーワードは「誓い」(5回)と「約束」(3回)です。誓いといえば、主イエスの言が思い起こされますね。『昔の人々に対して、『偽って誓ってはならない。あなたが誓ったことを主に果たせ』と言われていたのを、あなた方は聞いています。しかし、私はあなた方に言います。決して誓ってはいけません。』(マタイ5:33-37)。

ところがヘブル6:13には「神は、アブラハムに約束する際、ご自分より大いなるものにかけて誓うことができなかったのも、ご自分にかけて誓い」とあります。主なる神がアブラハムに誓って約束されたのですから、これ以上に確かな約束はありません。その誓いとは「確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたを大いに増やす」(14節)という約束でした。この約束の実現はアブラハムが75歳の時に与えられ(創世記12:1)、25年後にイサクの誕生によって開始し、現代にもなお続いている、生きた約束です。では、アブラハムはなぜこの祝福の約束を与えられたのでしょうか。アブラハムがまだ主なる神による改名前のアブラムだった時のことを創世記が伝えています。

「主は、彼を外に連れ出して言われた。『さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。』さらに言われた。『あなたの子孫は、このようになる。』アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた」(創世記15:5,6)。

主なる神のこの約束は、彼の人生の節目節目で繰り返し語られます。そして、アブラハムはその都度、御言をただ信じて従うことによって祝福の始めとなったのです。神様のなさることは人間の時間感覚や尺度を遙かに超えて、比類なく確かです。神の言である聖書の御言を信じて聴き従う人はすべてアブラハムの子孫です。アブラハムの子孫である私たちへの約束の御言葉が記されています：

「そこで神は、約束の相続者たちに、ご自分の計画が変わらないことをさらにはっきり示そうと思い、誓いをもって保証されました。それは、前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。その二つについて、神が偽ることはあり得ません。」(ヘブル6:17,18)

神学校を卒業して、最初に私たち夫婦が赴任したのは九州の教会で、一年間、見習い牧師として奉仕しました。やがて一年が過ぎる頃、次にどこへ行くべきか祈り求めていると、主は「私が…与える地に行きなさい」(ヨシュア1:2)との御言葉をもって押し出して下さいました。私たちは行き先を知らずに旅立ったアブラハムのような思いで、ひとまず私の母教会がある町を目指しました。

一週間後、母教会に着くと、少し前に閉鎖・売却されていたことを知りました。どうしたら良いか分からず、翌日、母教会の周りを自動車で回り、見つけた不動産屋さんに飛び込んだところ、集会を始めるのにうってつけの借家を紹介してもらうことが出来ました。その時々にも最もふさわしい御言を以て導いて下さる主が共におられることを体験しつつ、私たちの開拓伝道が始まったのです。